

社会学者古市憲寿さん×仲川げん奈良市長 「子育てしやすい社会とは」トークセッションレポ



子育ては「ママ」だけのものじゃない 社会全体が温かい眼差しを



すべての子どもが平等に 教育を受けられる社会へ

岩城さん 子育てといっても幅広いですが、乳幼児期の負担が一番多いと思います。古市さんの著書『保育園義務教育化』を読んで、「子育てしやすい社会へ」のヒントがあると感じました。どういった考えで書かれたのでしょうか？

古市さん 小学校では「今年が定員がいっぱいなので来年まで待つてほしい」と言われることはないじゃないですか。誰もが幼稚園や保育園へ行けるよう、国や行政が責任をもって動くようになればいいと思って書いた本です。僕は結婚もしていない子どももいないけど、子育てに関して部外者である僕でさえも、今の社会が子育てする環境としては、あまりにも大変に思う。この本の冒頭には、「お母さんが人間っていつ気づきましたか」という質問から始まっているのですが、日本では母親を人間扱いしていないような気がして。お母さんは何でもやって

くれる、朝も絶対に起こしてくれる、何を頼んでも叶えてくれるとか人格化されていて、育児や家事、大変なことを母親に押し付けるのが当たり前でいるのはおかしいという内容を書いています。

岩城さん やはり、父親より母親に家庭での役割の負担があると思われませんか？

古市さん もちろん男性の育児参加も進んできてはいますが、まだまだ女性の方に負担が多い。男性はバリバリ仕事しながらも結婚をして、子どもが生まれても変わらず仕事ができるけど、女性の場合となると、結局難しかったりします。まだまだアンフェアな状況というのが、この社会にはあるように思いますね。

岩城さん 10月1日から幼児教育無償化がスタートしましたが、どう思われますか？

古市さん 部分的とはいえ、一歩前進だとは思いますが、でも実際は0歳や1歳児など、入るのが難しく保育園が足りない状況もあって、無償化と待機児童問題の両方をやっていかないといいないですよ。小学校に入るまでの教育も、義務教育にした方がいい。奈良市でも待機児童はいるんですよ？奈良です？いい田舎だと思っていたけど、意外と都市型なんですね（笑）。

仲川市長もともと専業主婦が多かったのがこの5年で、乳幼児のお子さんを持つ女性で就業している女性が40%から一気に60%に増えました。つまり、ここ数年で潜在保育需要が増えてきたということがあります。

古市さん 専業主婦も大変じゃないですか。ずっと家で子ども向き合っていて、専業主婦であっても保育園を自由に使えるような、もっと気軽に育児ができたらと思うんです。育児を自分一人で抱え込まなくてもいいような社会を作れた方がいいと思つて。

ないかというのが、教育の観点からも言われているんです。

仲川市長 小学校に入る前の教育は、将来を左右する重要なものです。保育園はこれまで厚生労働省の管轄で、働く人の子どもを預かるという福祉施設の意味合いが強くて、一方幼稚園は教育の施設という認識で、ここに差があります。これをイコールにしようというのでは、これからの流れです。単に子どもを預かるのではなく、どんな教育の質を提供してくれるかが本来求めるべきところなんです。まさに量から質へと、議論が転換されていこうとしている時期なんです。

岩城さん この本では、子どもが質の高い幼児教育（非認知能力の向上）を受けられた場合、社会へのリターンが大きいとも書かれています。

古市さん 日本でも子どもの貧困が問題です

が、でもそれって子どものせいじゃないですよ。どんな家庭環境で生まれても、スタートラインは一緒にしてあげるのが大事。どの子も質の高い教育を受けて育つていけば将来の犯罪が減ったり、稼げる人が増えたり、社会が大きくなると思えます。社会性が身につかずちんと働けずにいると、最後は国の福祉が必要になってきます。それって社会としてもお金がかかることじゃないですか。だったら後からじゃなくて、子どもの年代に手厚い教育をしておけば、将来にかかるお金が減るのではないかなと言われているんです。その方が、日本全体でみたらお得なんじゃないか？って思うんですよね。

岩城さん 参加者の方から「子どもを産んでから「すみません」と言うこと増えました。出かけていても、騒がしくないか気になります。迷惑をかけないか親はヒヤヒヤです。子どもってすこく幸せな存在なはずなのに」と、意見をいただいております。

古市さん 子どもは、コントロールできないことが多く多いじゃないですか。親のせいではないけど、騒げば親が申し訳なさそうにしないといけない。それが本当に理不尽だと思うんです。でも本当は周りが「いいんだよ」と言っていてあげれば済む話なんです。なかなかさうはいかないですよ。

岩城さん 日本は子育てしにくい国なのでしょうか？

古市さん 赤ちゃんという存在に寛容じゃないなと思ってます。そもそも日本は働く男の人を標準におきすぎて、それ以外の人のことをあまり考えてこなかった。男の人は会社において、女の人は家において、子どもは学校にいる。それが標準になっていて、標準以外の生き方をあまり許してこなかった国。そういう意味でも、育児のしにくさはあるのかもしれない。



岩城さん 赤ちゃんという存在に寛容じゃないなと思ってます。そもそも日本は働く男の人を標準におきすぎて、それ以外の人のことをあまり考えてこなかった。男の人は会社において、女の人は家において、子どもは学校にいる。それが標準になっていて、標準以外の生き方をあまり許してこなかった国。そういう意味でも、育児のしにくさはあるのかもしれない。

男性の育児休暇取得が 当たり前の社会に



古市さん 男性の育児参加も大事だと思えます。男性も育児休暇を取って、実際に育児をすればその大変さが分かると思うんです。お父さんはただ働いて、家で威張れるというのではなく、ちゃんと子どもに関わっていくのがお父さんなんだってことを実感すれば、母性ではなく父性も変わると思う。日本でも男性の育児休暇を義務化してもいいんじゃないかと思うほど、本当は大事なことだと思つてますよ。

岩城さん 子育てしやすい社会にするために、私たちができることは何でしょうか？

仲川市長 子育ての当事者以外の方がいかに、子育てに関わるかということだと思つています。子

岩城さん 保育園は働いているから預ける、働くために子どもをみてもらう場所というイメージが強いですが、この本で語られているのは、働いている母親に限らず、子どもを預けた時に預けることができるような、またどの子どもにも質の良い幼児教育を保障するという意味でも「保育園義務教育化」というのが一役買うと書いていますね。乳幼児教育の質を保つためにはどうすればいいとお考えですか？

仲川市長 子どもを預ける保育園がどういったカリキュラムで教育をしているのかは、誰もが気になることだと思います。今は無償化に注目が集まり、無料有料かという話になっていますが、最終的に目指したいのは、全ての子ども（0〜5歳児）が親の就労に関わらず、預けたい人は預けられて教育を受けられるようになる。そういうことをキャッチーな言葉で言ったら、「保育園義務教育化」ということになるのかなと理解しています。

非認知能力を養うために 未就学児童への教育は重要

古市さん 学力は後から伸ばせたとしても、非認知能力と呼ばれるような社交性やコミュニケーション能力、我慢する力とか、生きる力みたいなものって子どもが5歳か6歳になるまでに決まってしまうのではないかと、ということが研究されて分かっているんです。非認知能力という力は一人で育まれるのではなく、集団の中で育まれると言われています。昔の日本なら大家族とか地域や親戚など、子どもであつてもある種の社会の中で育つてきたと思うのですが、今は核家族化や地域との交流が少なくなつてきて、子どもが家の中で大事に育てられている。閉じこめるのではなく、幼稚園や保育園に行つて様々な人と接する方がいいのでは

育てを終えた方や子育てをまだされていない方こそ、子どもを抱えて焦っているお母さんを見たら「大丈夫よ」と微笑むだけでも安心します。そういう行動が、小さな革命につながっていきますよ。

古市さん 社会全体の問題として捉え、子どもが増えていけば日本の将来にとっても良いことなんだと気づけば、もう少し寛容になれると思う。

岩城さん 育児をしていない人たちが自分ができるのかと、考えて行動することで社会は少しずつ変わっていくのかもしれない。

ALRIGHT BABY FESとは

ALRIGHT BABYの活動を始めるきっかけ!
古市憲寿さん著書「保育園義務教育化」小学館 / 1,000円+税

「もしも保育園が義務教育化されたら...」子供の学力は向上し、児童虐待は減少し、景気も向上? もう世界では始まっている! 社会学者・古市憲寿氏が提言する、母や子供、日本を救う少子化対策!

「ALRIGHT BABY」"赤ちゃんに優しい社会へ"の周知活動として、テーマソングを歌うLICALIFEの音楽ステージや子育てをテーマのトークセッションを行う。